

「入間市文化施設」及び狭山「西口開発事務所」視察報告

施設研究委員会 栗原忠治

施設研究委員会では、去る10月5日、会員7名が雨の中、「入間市文化施設」及び西口開発に伴う「B街区」に予定されている「公益施設」模型の視察に行きました。

1、入間市立図書館「西武分館」

視聴覚室120席固定式、映像設備(16ミリ映写) 舞台は小さい。映画・ビデオ・講演会・小演劇・朗読会等に利用されている。廊下はピクチャーレールを設備。常時作品が展示されている。多目的機能は便利だが難点が多いとの館長談。

2、入間市博物館「アリット」

広大な広場、施設が配置されている。まず広さに驚いたという声。展示施設としては、常設展示室、市民ギャラリー、特別展示室がある。移動式パネルで多様なレイアウトができ、目的にあわせて自由に利用できる。照明は間接照明。移動式スポット、温湿度調整。海外美術品も展示できる本格的な展示施設であり、利用者も多く使用料は低額で3500円。学芸員常駐で、8名が催し物やレイアウトを担当。参加者みなさん「うらやましい」のため息がでる。

3、お茶室「青丘庵」

室内に2畳2台目席、8畳、12.5畳の茶室。室外に滝、池の上にデッキがあり、野点もできる。さすが茶処にふさわしい施設である。

4、狭山西口開発事務所の見学

担当者から説明を受ける。11月中旬、都市計画決定の内容。「B街区」を含む、道路・土地地目変更などの基本計画の決定模型の見学。現況はあくまでも都市計画決定の想定図であり、公益施設や建物の具体的計画は、平成17年度の認可を目指している。文化・交流・福祉機能施設の中に「中央公民館」が移転する。

今後、多目的施設がよいか悪いか、どのような施設にするか、施設研究委員会としては参加団体等の意見を聞き、文団連として市へ提言していきたいのでよろしくお願いします。

(連絡先：栗原まで TEL&FAX:2953-1766)

豆知識シリーズ(その13) 専門用語を一口で解説!

これで私も国際人? ~ 一夜漬けで覚えられる「箏(こと)」の知識(その3) ~

4. 弾きかた: 箏爪を右手親指・人差し指・中指のそれぞれに、自分の爪と反対側に爪がくるようにはめ、竜角と柱の間の糸を弾きます。爪の形は、生田流は角型、山田流は馬蹄型で弾く角度なども異なります。爪弾きの様々な弾き方や、爪の当て加減による音の変化に加えて、右手の薬・小指、左手の中・薬・小指の指弾き、また弾く位置によって変わる音色の種類などを総合的に駆使しながら表現してゆきます。

5. その他: 楽譜は、文字譜(糸譜)と言って、五線譜とは違い絃名(一・二~九・十・斗・為・巾)で書かれてあり、音の長さや休止符、様々な奏法に関する独特の表記方法があります。

正座をして弾く場合を「座奏」、椅子に座って弾く場合を「立奏」と言います。いずれの場合も演奏者は、腰を据えて、腰から上の全ての力やエネルギーを右手の3本の指にはめた爪または指に集中させます。また、各指自身が強い力を持っている必要があります。しかも3本を同じ力加減で弾けるよう訓練します。また左手人差し指や中指の腹の部分は、きつく張られた糸を強く押すために、堅くなっています。

演奏中のハプニングとしては、柱が倒れる・爪がはずれる・絹糸を使用の場合は糸が切れるなどがあり、いずれも慌てずに対処いたします。(狭山市三曲連盟 横山美衣)